

2026_0225 「国道45号線のオーロラ」日々の理科 4217号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

.

北極圏の夜空を大きく包み込む、雄大なオーロラの光景です。淡い緑の光が弧を描きながら広がり、まるで空そのものがゆるやかに呼吸しているかのように揺らいでいます。とくに目を引くのは、空を横切る「つの字型」の独特な形状です。これはスウェーデン・ノルボッテン州ヨックモック郡周辺でしばしば見られる構造で、帯状のオーロラが大きく湾曲し、空間の奥行きを強く感じさせます。

光のカーテンに囲まれるように、無数の星々もまた静かに瞬いています。オーロラの明るさの中でも消えることなく輝く星は、宇宙の深遠さをそっと思い出させてくれます。地平近くには雪に覆われた森が広がり、凍てついた大地の静寂が伝わってきます。

一方、右下に走る明るい光の帯は、国道45号線を行き交う自動車のヘッドランプです。長時間露光によって光は一本の線となり、人の移動の軌跡を描き出しています。天空で繰り広げられる「宇宙の渚」とも呼びたくなる壮大な現象と、その下で続くヒトの営み。その両者が同じ一枚の中に収められた、かけがえのない一瞬です。

(2026年2月下旬/スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅/東京から遠隔観測)

